

く千切つてまきちらす。どうして東京驛につく列車一日に四十三列車、これによりて運ばれる空き瓶が四五百本から六七百本、辨當箱や紙屑のゴミ類が大八車で十五六杯づゝ運び出されるといふから驚かせる。これが毎日自分の家の中は叮嚀に掃除させる、庭の苔のよくつくようにと子供の足踏みをとめて、狭い往來で命がけで遊ばせては、傍ら往來を邪魔させる所謂君子人の所作とおもへば其豹變に面喰はざるを得ない。

七 縦の道徳と横の道徳

由來日本人にはヴァーチカル・モーラリチーは馬鹿に發達したが、ホリゾンタル・モーラリチーは頭から缺けてゐた。いかさま源平藤橘以來内輪喧嘩ばかりつゞけて來た。徳川時代は封建政治で譜代外様の諸大名がにらみ合ひてつぱり合つてゐた。今日でもその氣分が政黨とか階級の鬭争氣分にのりうつつて、かなり深刻にいがみ合ひ赤眼をつり上げてゐる。それだけに今までは縦の道徳として親子なれば親の病の藥の代に、娘は身賣りして『わしや嬉しい』といった。

君臣の間柄となれば家來は殿様のためには腹をかつさばく、子を殺してお身代りをする、そして『ア、ラ嬉しや忝なや』といった。それが今日では横の道徳は昔のまゝに省みられなくて、縦の道徳はケロリと奇麗さつぱり振り捨て、仕舞つた。それなれば日本人には全く横の道徳の素質が無いと諦めねばならないか、こゝに一二或る夏の北海道旅行中の思ひ出漫談を紹介して見よう。

八 氏より育ちの野球チーム

數年前のある夏北海道を旅した時、札幌驛から學生野球チームの一行と乗り合した。餞別にバナ、と櫻ん坊を山盛りにした籠が二つ贈られてゐた。一人の若いのがそのバナ、を二つ三つちぎつては器用に投げる、仲間の面々はそれゝに旨い事キャツチする、さすがに野球の選手達の事である不思議がるにもあたらないが、感心したのはその連中が揃ひも揃ふてバナ、を口にすると、その皮を手の平にのせてる。丁度汽車が郊外に出るのをまつて、その手にしたバナ

、の皮はそれ／＼窓の外に投げられた。さてバナ、がきれいに平げられて仕舞ふと、今度は櫻ん坊である。これは投げるわけにもいかぬので、一つかみづ、仲間の手の中に萬遍なく分けられる。これが日本式に口に入れると種は口中からペツ／＼と、床の上に吐き出されるかと思えば、又手の平にうけて吐き出され、そして窓の外に投げ捨てられる。山盛りのバナ、と櫻ん坊の籠は二つともきれいに空になつた。しかし車中には只一つのバナ、の皮も残つてゐなかつた、只一つの櫻ん坊の實も捨てられて無かつた。さりとては珍らしい事ではあると、連中の身元を聞けば、米國加州から遠征の選手連である、日本人は日本人だがアメリカ育ちである、成程氏より育ちとは能くいつたものだなあと感心した。

九 アイヌ部落の小學兒童

その數日後に札幌から苦小牧といふ王子製紙の工場に行く途中に、アイヌ部落視察のため白老といふ部落を訪問したところが、不思議にもどの往來も／＼まことに奇麗で、塵一つも止め

ずに掃き清められてある。これは又どうしたわけかとたづねたら、此村の小學校生徒は毎朝各受持ちの道路を掃除して、それから登校する事になつてゐるとの事。かうした経験は不幸にして花の都の大東京では薬にしたくも見た事も聞いた事もない。

神宮外苑の野球試合陸上運動競技などに、その試合の済んだあとを御覽なさい。尻しきの新聞はしきつ放し、煙草の吸から紙屑、蜜柑や林檎の喰ひさしなどが、一面に算を亂して散らかつてます。歐米人はこれを見て我々の國ではスタンドに紙屑一つ取り残されないのに、日本では又何んといふ亂雑な事であるかと眼を丸くしたそである。近頃の復興の新公園を見ても奇麗に塗り立てたところには落書がしてある、街燈のガラスは石を投げてこわされてある、あの向島の土手の新公園に新に植ゑつけられた櫻の若木、枝の低さといひ細さ加減といひ、ヘシ折るには持つて來いである。來ん春にはオツベシ折つて呉れんづと手ぐすねを引いてゐる事であろう、假令少數にしてもそうした篤志家ののさばつてゐる東京で、市を愛せよとか公德を守れといつて見ても糠に釘かも知らぬ、鬼の念佛馬の耳に風かも分らない。しかし北海道のアイヌの

部落でも自分達が塵あくたを取り散らかさず、更にきれいに町を掃除してゐる。帝都の民が折角復興した町、きれいに新規に造りあげられた町を汚さずに保存してゆけないといふ筈がない。現在のもし大人達には匙をなげてもせめては小學兒童には公德の養成をつとめたい。

十 電車のレールの溝の小石

由來人間の踏みゆく途に小乗と大乘とある。我等の町を愛する事我等の家の如くせよとは小乗である。更に他人が汚なくしたものを奇麗に清める、そこに大乘がある。

日露戦役以前の古い思ひ出である、白耳義ブルツセル市の往還を土地の貯金局の友人と散歩した時の事である。連れ立つた友人がふと足をとめて二足三足ふり戻つた、どうしたのか？物でもおとしたのかと見てあれば、その友人はステツキの先で電車のレールの溝にはさまつてゐた小さい石をはね飛ばし、それから引きかへして來た。もとより小石である、レールの溝にあるからといふて、爲に電車が脱線する心配が無い。しかし小石でも溝にはまつてゐれば幾分と

も車輛が痛む車も動揺する、取除きおくに越した事がない。自分は今散歩してゐる、別に電車の會社に縁もゆかりもないが、ほんの一擧手一投足の勞である。目に付いたから取りのけたまでだといふ軽い心持である。私はかうした心持がより合つて、そこに小巴里といはるゝブルツセル市があり I'union fait laforce といふ白國民族の魂があるのだと思ふた。

十一 心の鏡のみがき

東京の町もところによりてはぬかるんで、水田のような處もある、田植をするのかと皮肉られそうな處もある、痰唾を吐いてもふさはしきところも無いではない。しかし復興なりて大東京の大部分は面目を一新した。しかも此復興には歐米の各國から又地方の同胞から言語に絶したる同情に與つたのみならず、そこに七億圓の巨資が投ぜられたのである。此大東京を愛護し清く美はしく保存することはまさしく市民の義務である。いや義務とあつては話が理づめになる、大東京は東京市民として否日本人として、否人間として磨かれねばならぬ鏡である。

新あらたにつくりあげられたる鏡かみ、此鏡このかみの前に立ちて砂利じやりを嚙かんだり瓦斯ガスを吸すつたりせぬよう、我等われらは共に心こころの鏡かみをも磨みがかねばならぬ。(都市問題五月號)

(本篇は三月二十三日東京放送局に於て『市を愛する心』と題し放送せる原稿をもとよして加筆せるものにかゝる。五・四・七)

試験地獄辯

地獄流行

近頃ちかごろ地獄ぢごくといふ詞ことばが流行りやうしてる。其その中ちゆうでも大關株おほせきかぶにあたる血ちの池劍いけつるぎの山やまにもたとふべきは試験地獄しけんぢごくと就職地獄しゅうしょくぢごくである。

事實じじつにふさはしいから流行りやうしてるのであろう。現げんに流行りやうしてるものを流行りやうしてゐないとは云いはないが、流行りやうしなご過ぎてるのか、流行りやうし過ぎてるのか、どちらだと問とはれたら、僕ぼくは少々せうく流行りやうの度が過ぎてると思おもふ。

試験地獄しけんぢごく又またの名なを入學地獄にふがくぢごくといふ。此この入學地獄にふがくぢごくには中等學校ちゆうとうがくかうの入學地獄にふがくぢごくもあれば、高等學校かうとうがくかうの入學地獄にふがくぢごくもある。しかしこうした地獄ぢごくは、近頃ちかごろになつて世よの中なかへ事新ことあらしくぬつと顔かほを出だした

のでも何でもない、かなり古くからの地獄であつた。その證據には間違ひの無いところ僕の高等學校入學地獄の實歴談を一片申し立てて見る。

明治時代の地獄

明治二十年頃から二十四五年頃東都に留學したものは、早稲田三田を除いて私學では今の中央大學の前身である英吉利法律學校、明治大學の前身である明治法律學校、法政大學の前身である和佛法律學校、専修大學の前身である専修學校あり。此等に入學するものは多くは判檢事か辯護士試験に登第するを目的とした。官學では駒場の農學校、藏前の東京高等工業などあつたが、先づ武に志す者は陸軍士官學校に海軍兵學校、文に志す者は一つ橋の高等商業と本郷追分の第一高等中學校、後の第一高等學校をめぐって雲集した。芝新錢座の攻玉社は主として海軍兵學校志願者を收容し、神田の共立成立錦城さては英語學校など、何れも一つ橋と追分を目ざしたものである。當時高商でも一高でも毎年の志願者は千人を上下した。しかも合格

者は百人内外にとどまり、大體入學の歩どまりは一割見當であつた。何人も受験して一度でパスしようなどゝそんな虫の好い考へは持つてゐない、二度三度とうけてパスするが通例であり、四度五度と度重なるものも稀れでは無かつた。

その後全國重なる處へ高等學校、高等商業が増設せられたため、學校によりてそれゝ相違があるが、何れにしても合格の歩留りは當時のように辛くは無い。もし入學歩合の辛さを標準とすれば、學校の供給が稀れであつた明治時代の試験地獄の方が、今日よりもより慘澹たるものであつた。

そんなら中學の方の試験地獄はどうか。高等商業が東京に只一つ、高等中學が東京に次で仙臺と京都にやつと二校増設した當時にありては、官立の中學校は大體一府縣に一つが原則であつた。はるゝ田舎から縣廳所在地の中學校を志願し、合格の上その土地に下宿でもしようといふは學資の點から生優しい事では無い。それでも田舎からかなり受験に押しかけて來たものである。全國各府縣それゝにその振合もちがふだろうが、僕の古い記憶では和歌山などで矢

張り半分位しか合格しない。しかも入學してからが三分一近くも落第する。無事一年一級と進級し、五年にして學校を卒業するものは全く例外に屬したものである。現に筆者など中學に入學した同窓にして、順當に卒業したのは京都市長の土岐嘉平君はじめ只の五人に過ぎなかつた。

地獄？ 地獄？

近頃は中學校は其數五百を越え毎年七萬八九千人の生徒を入學せしめつゝある。成程教育の普及向上により入學志願者の絶對數に於て著しく其數を増して來てる。しかも學校そのもの數が又遞増され、入學率は存外に甘くなつてゐる。現に志願者の入學率は大阪では七割二分、奈良縣では八割三分、兵庫縣では六割七分といふ數字を示してゐる。もし試験地獄の聲高しとすれば、それは同じ府縣の中學の中で、盛んにえり喰ひをしてゐる結果、是非一中志願一中志願といふので、無理にもその景氣にあふられて、府縣廳所在地の第一位の中學へ志願者が競争する爲に外ならない。現に愛知、石川、福井、和歌山、廣島、香川、高知の諸縣では、縣内一二の

學校を除いては志願者が募集人員に充たずして氣息奄々たるものがあるとの事であるが、恐らく他の縣にも之に似た例が少くは無いであらう。もとよりそれには不景氣とか疲弊とかいふ事も原因となつてゐよう、又實業學校の方に多少共方向轉換もされてゐよう、いづれにせよ、試験地獄と世間で聲を立てゝゐる割合に、その正體にくらべてその影大に失するものあるは疑を容れない。

試験極樂

更らに如上の實相に一層大きな裏書をしたことは、近く報告された東京府少年職業紹介所の川野温興氏の入學難の實相を示した數字である。乃ち

昭和四年度東京府下中等學校中

男子四十二校

募集人員 六千四百名

應募人員 二萬三十九名(三倍強)
女子三十三校

募集人員 四千二十名

應募人員 一萬三千四百九十一名(三倍強)

といふ數字を示してゐるが、其不合格となつた三分の二強の應募者はどうなつたか。中學校にも女學校にも入學せず仕舞かといふに

代表的小學校卒業生

男子七十二名の

希望せる學校

四十四校

其延人員

二百十一名

一人の平均志願校數

二、九三(約三校)

女子七十一名の

希望せる學校

三十八校

其延人員

二百名

一人の平均志願校數

二、八二(約三校)

乃ち實數より見れば

中學校へ志願者

六千八百三十九名

女學校へ志願者

四千七百八十四名

前者に於て應募者の九割三分、後者に於て應募者の八割四分が入學した事になるといふ。これは東京だけの話であり、代表校を以て他を類推したのであるから、そのまゝ之を他に律する事は出来ぬとしても、以てその大勢を卜するに足りるとおもふ。

就 業 地 獄

此の如き實狀は就職難の場合に於て更に著るしい。日本三井三菱住友正金第一安田その他の銀行はもとより、各民間の重なる會社に就職を志願するものは、各數百人を算する。しかも採用されるものは五指を屈するに足りない。しかし殆んどそれらの大部は同じ志願者によりてくり返へされてゐる。朝日新聞社の入社志願者は千人に近い。しかもその九分九厘までは他の

新聞社はもとより、他のあらゆる方面にも志願してゐる。職に就きうるや否やが問題である以上、自分勝手にすぎ好みはして居れぬ。出来るだけ澤山股にかけて、手あたり次第志願をする。現にさる大阪の大学の友人の親しく僕に話したには、卒業生の大部は平均七八ヶ所に志願してゐる。尤も多いレコードは十三ヶ所に志願してゐたといふ事であつた。くれぐれもいふ、そこに試験や就職の地獄なしといふのではない。只筆に舌にうたはれる数字を見て、そのまゝ早合點しては實際とへだたりが生じる。少く共こゝに述べたような表裏もあるから、能く考慮に入れなければならぬといふ事である。

小學の中途退學

試験地獄からいつも聯想される問題は、中途退學といふ事である。由來中途退學の多いといふ事は日本の教育の一大特色で以て海外に誇るに足らざる憂ふべく悲しむべき現象である。東京市内だけでも小學校に入學する學齡兒童は、一年に約三萬五千人位づゝある。それが卒業期

までには約三分の二位に減るのである。昭和五年三月に卒業すべき兒童は二萬七千七百九人であるが、入學した時は三萬四千五百七十二人であつたから、六千八百六十三人といふ夥しい中途退學者を出してゐる。その中には無論死亡者もあるにはある。なにせよ全國で毎年四千人の肺結核の小學教員を輩出し、一十萬人の小學兒童の中に五十萬人の肺結核患者を養成してゐる位の意氣込だから死亡者數も少くはない。歐米各國のそれに比して比率においては甚しく高い。とはいふものゝ死亡なり又は轉學などは、實數に於て僅かなもので、大部分は全く行衛が不明である。これは東京市の特有の現象でもあろうが、とにかく日本では半途退學が多い。しかも行衛不明の退學が多い。

中學の中途退學

中學校に就て見るに全國約五百の學校は毎年七萬八九千人の生徒を收容し、同時に年々二萬七八千人の半途退學者を出してゐる。最近六年間に於ける全國中等學校の實際に付て見るに

卒業年次	卒業者數	入學當時の生徒數	半途退學數
大正十二年	二五、二九一	三九、五四二	一九、九一二
同 十三年	二八、三四一	四二、三七二	二六、七二五
同 十四年	三二、三四〇	四六、八二六	二六、七二五
同 十五年	三七、〇七九	五二、六四四	二七、三一二
昭和二年	四四、二六九	地震の爲不明	二七、六六一
同 三年	四九、五六一	六八、二九二	二八、四九一

猶昭和三年の半途退學者二萬八千四百九十一人につき其退學の事由を細別すれば

- 高等學校入學による者 一、九八四
- 陸海軍諸學校入學による者 一四四
- 官公立諸學校入學による者 二、五二九
- 私立諸學校入學による者 一、二七〇
- 懲戒處分による者 七九五
- 死亡又は疾病による者 四、〇二九
- 其他の者 一七、七四〇

計

二八、四九一

懲戒や死亡疾病による者も困つたものだが仕方がない。其他の者に至りては一萬七千七百四十名といふ多數を占めてるが、これは仕方のある困り者である。此中には生徒自身の落伍といふ事もあるが、虚榮の夢から醒めて自覺の現實に入つたか、經濟が許さなくなつたか、中には父兄の無自覺によるものも少くはないだろう。もしさうした連中が始めから眼覺めて居ればそれだけ入學の關門に於て所謂地獄の悲鳴が一層緩和さるべきである。教育費は地方財政の痛になつてゐる、あらゆる意味に於て中途退學ほど勿體ない馬鹿々々しいものはない。父兄も本人ももう少し眞劍に自分達の將來を考へてくれぬと困る。

不平愚痴萬能時代

僕の最後に云はんとすることは、近頃の社會思潮は自由平等をはきちがへてゐる。自分のよろしくない事は棚へあげ、勝手な熱を吹くのはまだよろしい、勝手な愚痴をこぼすを以て能と

する。社會も又之に共鳴し、之に同情し、世の中は不平愚痴萬能の時代となつて來たような感じがある。社會も又之に共鳴し、之に同情し、世の中は不平愚痴萬能の時代となつて來たような感じがする事である。義務は忘れて權利ばかり主張する。愚者は賢者を忌み、弱者は強者を呪ひ、惰ける者は勤める者を排し、悪き者は正しき者を陥れんとする。社會へ出てからの階級闘争なら分つてゐるが、學校時代から自分達が一度生れて二度生れず、その限りある一生の間、しかも將來人間として活動すべきその準備に忙しい中から、盛んにストライキの興行に忙しい。中には勇壯なる特志家のあるあり、なにも師の影は三尺去つて踏まずとまで恐縮するにも當らないが、校長や先生達を腕力を以ては倒すに至りては論外の沙汰である。日比谷の帝國議會の大先輩を眞似るにしてが、さうくさらには議員さんになれるでなし、武勇傳に事を缺いて年とつた先生達を倒すなどは言語同斷の沙汰である。

機會は均等である。同じく智者でありよく勤めるとして平等なりといふのである。エクオール、オツポチユニチーである。馬鹿でも惰けても、智者なり勤める者と平等なりとはいはないのである。

そこに生存競争がある。優勝劣敗がある。勉強しない惰ける、そして落伍するに不思議がない。入學できぬ、落第する、それは當然すぎる。賢愚共にのつべらぼうに入學し進級すること不公平である。

落第の損害賠償

此ほど日本大學の齒科學生某は臨床試験の點の少ない爲め落第したら、卒業前には多數の臨床實習をさせるはずだに一二名の患者しか實習させなかつた。それが落第の原因であるといふので、受持教師の横つつらでも張つたのかと思ふと、落第による精神的苦痛物質的損害を合して、學校へ六千百餘圓の損害賠償の訴訟を提起したといふ新聞記事を見た。いづれ此調子では入學させぬ落第させた、怪しからぬといふので、試験地獄の聲は試験地獄の訴訟時代にまで延長されてくるかも知れない。僕は試験地獄の聲のあまりに大なるにかなり不満である。地獄地獄と子供達の爲めに泣き悲しむ親心もありがたいが、地獄が何んだと激勵する親心を奪いもの

とおもふ。況んやその親の同情に甘へて愚痴と不平をこねまぜる幼年青年に至りては、その弱々しさその痛々しさに涙がこぼれたいが、呆れて涙もこぼれない。

無手隻脚

此間さる新聞で無手隻脚の廢人中山生堂君の記事を見た。親は四歳の時坑内で爆死する、祖母と母につれられて親戚の許に微かなくらしをつゞけてる。六歳の時汽車にひかれて双手と左脚を失つた。それで小學を了へ中學を了へ、口で書き右足で書き、今は映畫説明者として自活しながら、猶傍ら東洋大學に通學してる。本人は『不自由なんて考へた事もなく感謝して生きてゐる。朝學校にゆく夜映畫館にゆく、自分の用は自分で足すから有難いと思つてる。人間望んだら切りがない。眞面目に働いてゆけばそれだけで結構だと思つてます』

といつてる。無手でも隻脚でも眞面目に進んでゆく道筋には、そこに試験地獄もない就職地

獄もない。

どうも僕には地獄の詞が新聞雑誌に演説に少々流行しすぎてるやうに感じられる。そんな事は好ましくない、有りがたくないと思ふのあまりかも知れないが、どうせ地獄とおもうても思はなくとも、再び生れ得ざる世の中である。不平や愚痴ばかりいつてゐては際限がない、女の腐つたのではあるまいし、御互に少しはハキノ／＼して明るく強氣で行かうではあるまいか。

寸暇利用法

寸暇。朝の便所（腰かけの西洋便所書棚備付）電車汽車の待合、往訪して待合す時、會議又は演説や講義などにて話したり聞いたりする必要なき時、ゴルフのクラブハウスの休憩、汽車電車船舶飛行機の旅。

いづれの時にもいつも原稿紙持参ペンをはしらせる。又校正ものに筆をとる或は思索する、短歌を案ずる、新聞雑誌書冊等に眼を通す。（現代四年十月號）

七 兩 二 分

間男したときは密通せる男も女も死罪になる。しかし親告罪だけに間男したからといつても殺されるとは限らない。をりく内済になる示談になる。そこに間男代七兩二分といふ相場まで立つてゐる。

なんで内済金の目安が七兩二分であるか？ これは黄金の大判が一枚の代金七兩二分だから大判一枚といふ代りに七兩二分といふたものであらう。ところが京大の牧教授は一説として七兩二分は七兩半である、七つ半は多數を意味する、度々使者を立てる事を七度半の使者を立てるといふ、人の噂も七十五日といふ、田原藤太秀郷が退治した、近江國三上山の大むかでは山を七卷半まいたと傳へられてゐる、七は一巡の數で七つ半といへば一巡を越えるから多數を意味する、だから命に代へての内済金だ。相当まとまつた大金でなければならぬといふので七兩二

分といふのであるといふのである。これも一説である。

ところで日本では間男すると死罪になるか七兩二分の内済金になるのだが、支那では男女共子供は商品として賣買されるから、死罪どころか七兩二分どころか、そこには飛んだ表裏した場面が持ちあがる。

これは臺灣在職中親しく耳にした事であるが、亭主は密通した女房を裁判所まで恐れながらと訴へたところ、法廷でその女房は亭主をにらみつけて『なんだい私しや間男したが子供を生んでやつたぢやないか、文句をいふ事ないぢやないか』と啖呵を切つた。たんかを切られた宿六はピヨコンと頭を下げて閉口頓首訴訟を引き下げた。女房に言はすると間男をしたからこそ子が出來た、その子を賣つてなにがしかまとまつた金になつたぢやないか、訴へるどころかお禮をいつてよいはずぢやないかといふのである。

これが實際あつた話である。いかさま處變れば品かはるとは云ひ條、これでは難波の葦は伊勢の濱荻どころの沙汰ではない。(關西文藝五、十一月號)

メリヤス物語

今夜ラヂオのメリヤスがある。

なんだラヂオのメリヤス？ ラヂオがさう勝手に伸び縮みしてたまるものか！

いやそのメリヤスといふのは唄なんだよ、江戸時代の昔をしのぶべく河東、一中、宮園、荻江などと一處に歌ふのだ。唄は富士田新藏三味線は杵屋榮二と同じく榮左久、だしものが傾城無間鐘と猫のつま、時は昭和五年七月十八日ジエー・オー・エー・ケーのプログラムにちやんとのせられてあるのだといふ。

メリヤスは吾等劇場にて折々耳にする事はあるがまだはつきりと真相がつかめてない。小唄よりは長いさりとて長唄よりは短い一種の端唄ではあるが、少しせんさくして見ると享保の頃といふから八代將軍吉宗の時分に、鳥羽屋三右衛門が歌ひ初めし端唄で、節はゆるやかに且つ

なめらかに、延びゆく間に一種の妙味をふくみ三味のバチ数少なしとあり。或は三右衛門の門人松島庄五郎、又は庄五郎門人富士田楓江の始むるところなりとも傳へられ、江戸に流行し宴席でも盛んに歌はれたとある。寶曆より享和とあるから十代將軍家治の頃、尤も江戸に流行して宴席でも盛んに歌はれたとある。そこでなんでメリヤスといふのかといふと、目利安二といふ武士が語り初めたからだともいへば、いや三下り調でいつも愁嘆場に歌はるゝ陰氣な調子であるからとかく沈み勝ちである。吉原の廓ことばで、ほんに氣がめいりやすといつたので、めいりやすがめりやすになつたともいふ。いかさま柳樽にも

メリヤスは女の愚痴に節をつけ

とあるから陰調である事はたしかだが、メリヤスの出處としてはいさゝかこぢつけがまし

い。
メリヤスの出處は矢張り劇場にて俳優の動作に關係なく、合方として樂屋にて何等の束縛もかゝはりもなく伸縮自在に歌はれ引かるゝ三味の手である。のびちぢみの自由なるより名づけ

られたといふ説が尤らしく聞える。

大槻文彦の言海には目利安莫大小？ めりんすと同語？ 或云ふ葡語なりとあり。又金澤博士の廣辭林にはメリヤスとは西班牙語 medias の轉訛にして、絲にて密に編みて伸縮自在なるように作りたる一種の編物なり。一本の絲を以て「わな」をつくり、これに他の「わな」を入れ、順次かくの如くにして幅廣く丈長く又は筒形などに編みたるもの、經編と緯編の二種ありと記されてある。

由來メリヤスは葡萄牙人西班牙人など大村平戸などに通交を求めし頃輸入せられたのであるから、天文年間既に我國に渡來し後次第に傳播せる事は、落合芳賀二氏の言泉に莫大小、目利安、女利安西班牙語 medias 葡萄牙語 meias 靴下の義なり。手袋靴下シャツ股引、さては刀の柄袋、鏢袋、下げ緒、印形入、印籠下げなどにもつくとあるにて知られ、猿蓑には書きなぐる墨繪をかしく秋くれてはき心よきメリヤスの足袋

史邦 凡兆

といふのが俳人のすさびによまれてある。

要するに伸縮自在どこで切れてもよろしいといふ、サナダ蟲然たるところがメリヤス調の起つた所以であつて、今度長崎平野屋の旅の窓で手にした長崎文献によると、メリヤスは葡語曰 eias 西語 merias に出づとあり、medias とはないが merias の方が正しいのだらう。それは西語の専門家にゆづるとして、長崎古今集覽付録名勝圖繪には、可愛い娘さんが毛絲のまりからくり出した絲で、靴下のようなものを編んでる繪ときが記されてある。これでメリヤス物語はおしまいであるが、こんな事をダラダラ書き出したもの起りは實は莫大小の三字にあつたのである。

大阪の梅田から神戸にはせる阪急電車の三つ目に神崎川といふ停留場がある。そこに赤煉瓦の工場があり、その煉瓦の壁に長々と白ペンキで莫大小紡織工場と記されてある。隣寸をマツチ麥酒をビール、煙草をタバコ、麵包をパンなど讀ませて喜んでゐるのだから、莫大小をメリヤスと讀んでも不思議でもあるまい。此間阿波ではある村の小字に十八女とあり、之をサカリと

讀ましてゐる位だから、伸縮自在大小に拘らず五體にびつたり合ふ。そこで大小の別なし、莫大小と記してメリヤスと讀ませる、誠に漢字の濫用否活用の妙を極めたるものであるが、我和歌山に育ち和を和と讀まされ、讀本にて隣國大和の和はトと讀まされ、和泉の和はイと讀まされてよりこゝに五十年、漢字のためにいまだに迷惑と混雜と間違をつゞけてるが、毎日此停留場をよぎる毎に、此メリヤス流儀の漢字横行により、小學と中學で三年乃至四年の學年が無駄につぶされてるかと思ふと、我邦教育の將來を考へて全く氣がメイリヤスのでアリンス。

(文藝春秋五、十月號)

長崎港繫船五首

長崎の港の端にけい船のところも狭げにたゞ浮びをり
人は見えすけむりのぼらす大船ひつそりかんと浮いてありけり
これやこの一萬三千四百噸の天洋丸はけい船となれり
我夢をのせてアメリカにはこびつる大船なりきたゝにねむりをり
がらんどうの船のしづげさ海鳥のマストからマストへたゞ一つ飛ぶ

臭い話

糞便の貯蔵

江戸つ子は五月の鯉の吹きながし口先ばかりはらわたはなしといふざれ歌がある、しかしそれは江戸つ子ばかりでは無い。武士は喰はねど高楊子といふ、しかしそれは武士ばかりではない。清貧に安んずる功利に遠ざかるといふが日本の国民性の特徴であり、金は貸した方が控へ目に遠慮して、借りた方は囊中銭なしとからつけつを自慢そうに吹聴する、日本人に貯蓄心の乏しいに不思議がない。

ところが貯蓄心欠乏の日本人に例外は無いではない。それは何やと問はれたら、それは大便小便の貯蓄である。しゝばゝの貯蔵である。しつこ、うんこの保存である。そのくせそんなに好も

もしいのかといへば、いや好もしくははない、臭い、すかんといふ。

大便を親とすれば小便は子にでもなろうか、さすれば屁は従兄弟位にあたる。大便から見ればおならは甥になり、すかし屁は姪といふ見當になる。このおならにしてがもとく貯蓄の出来る代物でもなく、出ものはれもの處きらはすとは云ひ條、人中のおならは失禮千萬である無作法至極としてある。僕など子供の時分おならをして能くお尻を引つばたかれた、さる花嫁はおならして恥しさに堪えず身を投げたとまでいはれてる。

おならとおくび

西洋ではおくび又の名げつぶはおならよりも失禮な事になつてゐる。日本ではかなり大びらにゲエーゲエーとのどを鳴らせて、あゝいゝ氣持ちだと涼しい顔をしてるが、さりとて西洋でもおならはかまはないといふわけでは無い。二年近い歐洲の留學生活中おならを聞かされた記憶は無いではないが少ない。記憶に残つてゐるのは伯林で古川阪次郎翁と一所に聞かされた、婦人の

勇敢なるおならぐらゐのものである。

いづれにしても西洋ではおならもよくないがおくびもよくない。日本ではおくびはあまり問題にならないがおならは無作法といはれてる。況んやその伯叔父にあたる大便に於てをやである。臭いものとしてイヤ／＼をしながら、さて便處の位置なり構造に至つては、いかにもそこに貯藏保存の愛護精神の流露せるものあるを見るのは不可解なる話である。

便所文献

大小便はいづれにしても發射せざるを得ないから、問題は主として便處となる。便處については第一にその位置について第二にその構造についてかなり異見があるうといふものである。便所は漢語では又の名を便房、厠房、灌處、淨房、用所、隱所、方便、東司、後架などいひ、まだ／＼六づかしい漢字をつなぎ合はせて支那ではさまざまの用語がある。中にも雲寶禪師が靈隱寺の司厠の職たりし爲とか、或は福州の雪峯義存禪師常に隱所を掃除して大悟を得た

りとかいふので、せついん(雪隠)よりつめてせつちんといふ語がひろく用ゐられてる。いづれにしても隠れる處である淨めらるべきところである。

やまとことばでは、かはやといふ。古は川の上につくりしたため川屋である。いや側舎の意味のかはやだといふ。俗にせんちゃん又はせんちや、或はへんちや、おんことこ、うんことこ、又えうじよ(要處) ふじやうば(不淨場)おべん(御便)てうづば(手水場)ようば(用端)つめ、かうや(厠)はばかり(憚)などくさ／＼の名前がある。字義用例から見ても憚らねばならぬ淨めねばならぬといふ意味があらはれてゐる。同時に御便である用場である。誰しも用便せざるを得ない、しかも大小便とも臭いばかりか其發射する格好たるやあんまりこのましい圖ではない。

便所開放

西洋人は人目に見られるをいやがる、といふて日本人は見せたがるではないが、宿屋の風呂

場で三助は裸體眺望權の自由行使といふ態度でう／＼しやあ／＼と浴客の男女たるを問はず、裸身の浴場へノサバリ込んで怪しまず怪しまれざる位だから、東西その間に大分の相違がある。現に西洋の便處は必らずロツクできる、日本ではロツクできないのがある。一々人の氣はいがすると便所の戸のサンに手をかけて、開けようとする開けさすまいとする。中よりは交ふるにエヘン／＼と咳き拂ひの連發をする。中には一々戸のサンに手をかけたり、一々咳拂ひをするが如き大丈夫の爲すべき所作にあらずと、悠然とかゞんだまゝすましてる。外から戸を開ける開けた方がヤ失禮といつてあはたゞしく戸をしめる、もとよりしつこをししたりうんこをするのは背徳でもなく違法でもない。俯仰天地に耻ぢないといへばそれまでゝあるが、さりとしてかゞんでいきんでる格好は大びらに見せてよい代物ではない。見ぬ方がよい見せぬ方がよい、豈獨り便處内の用便にかぎらない。野天の用便も又然りであるが、野天の大小便は西洋の婦人には禁物である。尤も日本でも中流以上の婦人には禁物である。此程京都のパンパシフキツク大會の折比叡山登りなどに、外來の婦人は便處の設備ないため中途にして下山しホテルへかけ戻つ

たといふ話もある。内外人の別なく婦人達の爲に有料でよろしい、こうした所には小ぎれいな便處を要處々々に設けておくべきであらう。

便所の位置

日本の家庭では臺處浴室便處など常用の場處、衛生上尤も必要な設備はとかくじめ／＼した日陰に追ひやられ、常用せられない客室が日あたりのよい庭園などながめのよい形勝の地點を占める事になつてゐる。

便所の下のたまりを公開してうち蟲のうち／＼とうごめくところまで供覽する式は大分に下火になつてきた。従つて相當重みのかゝつてる糞片を落下すると、ピシヤツと音するのはまだ忍ぶべし、黄汁のハネを臀部にはねあげるなどは感心しない。がそうした危険は近頃大分薄らいで來た。しかし糞便を丹念に貯藏して以上は、銀蠅も蛆蟲も繁殖せざるを得ない。バチルスノ傳播には持つてこいである。えならぬ臭氣は便處ばかりでない外にまで漂ふ。どうも鼻持

がならぬ、臭い〜といひながら我慢してるところを見ると日本人も存外忍耐力がある。
由來西洋便所で水はけがよいと、臭くないから落ちついて腰をかけてゐられる。糞便も順調に排泄せられよう。それが薄暗い臭氣紛々たる日本便所にかゝんで、暗くて臭くて脚は次第にしびれてくる、豈それ心せきにいきまざるを得んやである。腹八分目といふ事はあるが、糞八分目でそこ〜に飛び出すなどは非衛生的である、宜なるかな日本に痔の患者のおびたゞしきや。

拙宅海南莊の便處は明るい洋式として窓際には書架を設け、そこへ雑誌書籍類を備へつけ、のび〜と書見しながらゆつくり用便するようにしかけてある。さらに新築の白雲樓の便處は東南に向ひ窓を前にしてゐる。腰をかけて用便しながら茅渚の海を眼の下に、生駒金剛葛城の連峯を雲間に望み、攝河泉の平野を一眸のもとにおさめてゐる。名づけて日ぐらしの便所といふてある。用便しながら風光に酔ふて詩歌を按ずべしである。

宿 屋 便

個人の家庭はしばらくおき、宿屋の便處には小便處は開放され、臭氣をして廊下傳ひに自由行動をとらしめてゐるところが多い。西洋人は日本家庭にゆくと便處のありかは容易に直覺されるといつたが、吾々だつて一つだけだが鼻は持ち合せて容易に直覺できる。便處は大概浴室とならんで、湯あみし、きれいになつて心地すがすがしく浴室を出ると、この臭氣のたゞよへる廊下をぬけなければならぬ。實以てうれしくない。

臭氣は感心せぬといふので水で一々流してしまふのが第一策であるが、そうした設備の無いところは臭氣止めといふので樟腦球などを使つてゐるが、樟腦の臭ひが大小便の臭ひと混成すると、鼻を刺すばかりでない眼にしみて痛い。これは茶室やお寺などによくてくはすように、杉の青葉をつめておく方がまだ餘程しまつがよい。

汽 車 便

汽車便とて汽車の辯當にあらず鐵道の便所である。此間大阪朝日で主催した觀光座談會席上でミスター、グレン、シヨールは、多くの友人から耳にするのはステーションの便處だといふ。プラツラトホームにゆく道すがら、處によると待ち合してゐるホームのそばの紛々たる便處の臭氣はとて堪えられない。停車中などにも丁度便處前にとまつてゐると夏などは一々窓をしめるも暑くるしい、全くあれには閉口しますといふ話であつた。僕は毎日阪急夙川停留場の神戸行から下車して踏み切りにかゝるとブンと便處の臭氣に襲はれるので、いつもこゝでシヨール君の話を連想するが、どうも便處は無くてならず遠すぎて困る、問題は水で流すのだが、それが出来ずばせめて少しは通風につき考へてほしい。

多くの便處は窓はあつてもその上の天井裏に息ぬきが無い。最近の旅行中雲仙の有明ホテル安房清澄山の書院では、天井の四邊に息ぬきができるせいか殆んど臭氣を感じなかつた。なんでもない事だが通風に工夫してほしい。

僕は國際觀光委員會席上で汽車便につきて一言した。それは下は吹きはなしであるのに

とても臭い、得ならぬ臭氣がある。一つは上に通風なく窓はしめ切りになつてゐる。それなら用便毎に水を流せばよいはずだが、日本人はその邊は至つて無頓着である。洗面處で顔を洗つてもその水を流すべく栓を抜くのすら無性をきめるのだから、用便をするが水を流さない。尤もあの水を流すための紐はぶら下つてゐるがとて力を要する、かたがた水を流すことが怠りがちになる。そこへ下はつゝぬけでも上はつまつてゐる。それであの通り鼻持ちならないのがある。

これは序であるが此ほど鐵道従業員の連中から停車中の大小便は禁止してほしいといふ建議をしてゐる、尤も千萬である。あの停車場内のレールの間へツクネンと糞をうづたかく盛り上げるのは全く感心しない。婦人などは停車中をねらつて用便する、我々とても好んで停車中用便したくは無いが、用便中に停車することもある。外國では停車中は便處の戸は開かぬようロツクする處もあるがこれも中々手敷である。結局乗客の公共道徳に訴へる、止むなくんば外國にもあるような、下へ垂れつ放しでなく宙でうけとめて置く装置も一策である。

昔から臭いものには蓋をするといふ。之れを事々しく仰山に筆にする、なんだか自分ながら

臭くなつてきた、読む方も鼻持ちができなくなるかも知れない、もう此邊で蓋をしよう。

(文藝春秋六年新年號)

日本アルプス十首

飛彈高山にて

アルプスを一と目に見んと衣手の飛彈高山に我つきにけり
松泰寺高處に立てば夕雲は山をかくして垂れこめにけり
朝まだき起きは起きしが霧をふかみ山見えずといふに又いねにけり
旅人われはるゝ來たるかひありてなみよろふ山をまさめに見たり
乗くらのむら立てる山はまなかひに思はず近く現れにけり
恵比壽岳中にかこみてむら立てる乗くら岳の張りのゆゝしも
焼が岳肩にかゝれるは雲らしく更によく見れば烟なるらしき
前穂高うしろに低く奥穂高は前にいや高くちかくせまりたり
鎗が岳鎗の穂先の中空にさえきはまるや雲立ち迷ふ
鎗が岳夏の眞空をつらぬきて大鎗小鎗のそぎのするどさ

昭和六年七月十五日印刷

刺客漫談

定價壹圓八拾錢

著者 下村 宏

發行者 四條 輝雄

發行所 四條 書房

電話神田三八〇番
振替東京一〇三八番

東京麹町區有樂町一ノ三
印刷所 株式會社 有恒社
印刷者 日永 悌三

◀ 本山萩舟編 ▶

美味廻國

美味い料理が手軽に出来る。

諸國

の自慢料理を、居ながらにして、どこの家庭にも、手軽に食味させたい爲め、國々から集まつた材料をば、一々自分の庖丁と、自分の舌とで、入念に吟味してその急所を、平易に懇切に、解り易く詳述したのが、本書である。

本書

を繙けば、何れの家庭でも、即座に美味い料理を調理することが出来、食卓が賑ふばかりではなく、特有の地方色や、人情味なども、加味されてその便利と重寶は此の上もない。實に本書は平和と和樂を齎らす源泉とも謂ふべきである。

萩舟

先生は、料理の名人であり、また新聞人ともので、單なる料理法を説くにも、朗々誦すべき名文が、織り込まれて到底類書に見られぬ、一大誇りがある。

定價壹圓八拾錢

送料十二錢

京東座口替振 房書條四 區田神市京東
番八三〇一 町袋臺河駿

小説

野村胡堂著

奇談クラブ

人間の構想力が生む

最高の結晶だ！

天下の鬼才「野村胡堂氏」が精魂を打ち込んだ奇想縦横の一大小説は正にこれだ。構想の奇抜―筆致の輕妙―興趣の豊富などは論ずるまでもない。眞に昭和の「千一夜物語」として讀者を完全に魅了せずには措かぬであらう。

定價 壹圓八拾錢

送料十二錢

見よ本書の内容

紅唐紙	第一話
魔の笛	第二話
湖心亭	第三話
女性之秘密	第四話
整地嶽	第五話

京東座口替振 房書條四 區田神市京東
番八三〇一 町袋臺河駿

好評忽ち三版

世界人の横顔

時代に活躍する各方面の諸名士が「あの日」「あの人」に接して最も強く感激し、最も深く心底に刻み込まれた印象——
 断じて誰にも言はず何處にも語らぬ、その貴重な思出を惜気もなく打明けたのが本書である。語る人も語らる人もすべて東西に鳴り響く第一人者然も、それが東京大阪朝日新聞紙上に約三ヶ月に亘つて連載され其の當時如何に世人の耳目を驚嘆せしめたか此の顯著なる一大事實が本書の眞價を雄辯に物語る。(朝日新聞社編)

四六判三百四拾餘頁
 各編寫眞挿入

定價 壹圓五拾錢
 送料 十二錢

發行所 東京 駿河臺 四條書房 電話 田神一〇三〇番

報知新聞社編

家憲物語語

日本の家庭を
 清く明るくする!

本書は古臭く禿式に「家憲物語」と銘打つたが、その内容は時代精神を存分に呼吸して萬人向の好讀物としたグツト碎けたもので、興味と實益の大文字が、全篇に横溢してゐる。見よ! 其所には寶玉の光を放つ幾多の教訓、遺訓、龜鑑等があれば、一家繁榮の秘訣、處世の妙諦、名人の苦心、出世美談、諸藝の蘊奥商業の機微等もあつて、次から次に展開される興味は津々として汲めども悉きない。世相は混沌、人心は暗い、考へねばならぬ時だ、本書を必讀して堅い決心と強い信念とを把握し日常生活の向上に精進せられよ。

題字 子爵 澁澤榮一閣下
 序文 侯爵 徳川義親閣下
 定價 貳圓
 送料 十二錢

東京 駿河臺 田神區 四條書房 振替口座 東京 一〇三〇番

豫防の出来る病氣

定價 壹圓八拾錢
送料十二錢

治療よりも豫防時代だ！

醫學博士 高野六郎先生 著

人間の敵は病氣である病氣に罹ると、其所には健康も長壽も幸福もなくして世の中は暗澹だ！
明るい人生を歩む唯一の方法として「百の治療より一の豫防」を重んずる時代が来た。
お互の身體は大切である。安閑と過す場合ではない。豫防に向つて、大いに意を注ぐべきだ。
内務省衛生局豫防課長として名聲ある著者が深くこの點に留意せられ、多年の研究と、幾多の経験とを提げて、世のため、人のため、進んで發表したのが本書である。
此の内容の總ては何處までも大衆的で極めて面白く極めて平易に詳述したもので、その一言一句は、讀者に多大の實益を與へずには措かぬ。唯一の國民衛生讀本として本書の必讀を江湖に高唱したい。

東 京 市 神 田 區 河 臺 袋 町 四 條 書 房 振 替 口 座 東 京 番 八 三 〇 一

肺の療養を語る

醫學博士

豐島

烈著

定價 壹圓八拾錢

送料 十二錢

博士が直
面した十
年の闘病
記録だ！！

肺結核を眞に治さうとするには、その正體を掴んで正しい療養に専念することだ。之を放擲して如何に有名な醫師の診察を受けても、また如何に多額の治療費を使つても、結局徒勞であり浪費であつて、病者を結核地獄から、徹底的に救済することが出来ない。
本書は博士が、苦闘十年の體驗と、多年の専門的研究とを以て、編まれた血と涙の一大結晶で、治病回春の大道を明示し、肺結核を繞る一切の事項を懇切平明に詳述したもので、病者の慰安、看護者の指導書として無比の文獻である。肺結核を恐れるな、まづ其正體と療養の要諦を掴め！

東 京 市 神 田 區 河 臺 袋 町 四 條 書 房 振 替 口 座 東 京 番 八 三 〇 一

6
2

◀ 編會協藝學亞東 ▶

農村教育の根本問題

東亞學藝叢書 第二輯

價定 壹圓八拾錢 拾送 貳錢料

農村教育と文藝	野口 援太郎
農村教育の梗概	中村 星一
農村教育の目標としての農村生活の社會化に就て	渡邊 庸一
農村教育問題	鈴木 正
農村教育序説	鈴木 静
農村に於ける宗教的陶冶に就て	赤村 秀吉
誤られたる農村教育	山崎 木一
農村女性教育	三宅 延吉
社會政策的に觀たる我國の農村問題	生江 孝之
農村の教育問題に關して	松井 謙吉

東京市神田區 四條書房 振替口座 〇一三〇八番 京東駿河臺

◀ 編會協藝學亞東 ▶

宗教々育の根本問題

斯界の權威者があるの卓見を披歴した一大警鐘だ

日本民族の宗教意識と今後の文化	鷺尾 順敬
科學の革新と教育の宗教化	田中 龍夫
宗教教育一夕話	淺野 孝之
宗教教育論	帆足 理一郎
宗教的情操の意義及び其涵養法	菰田 萬一郎
女性と宗教教育	松平 俊子
兒童性の研究と宗教教育	木村 秀吉
宗教教育の根本方針に就て	神崎 一作
宗教教育への一寄與	諸岡 隆三
兒童期の宗教教育に就て	御木 本三
宗教教育の本質と其實際的方法	倉橋 惣三
我國に於ける神の意義	今岡 信一
	山本 信哉

◀ 價定 壹圓八拾錢 拾送 貳錢料 ▶

東京市神田區 四條書房 振替口座 〇一三〇八番 京東駿河臺

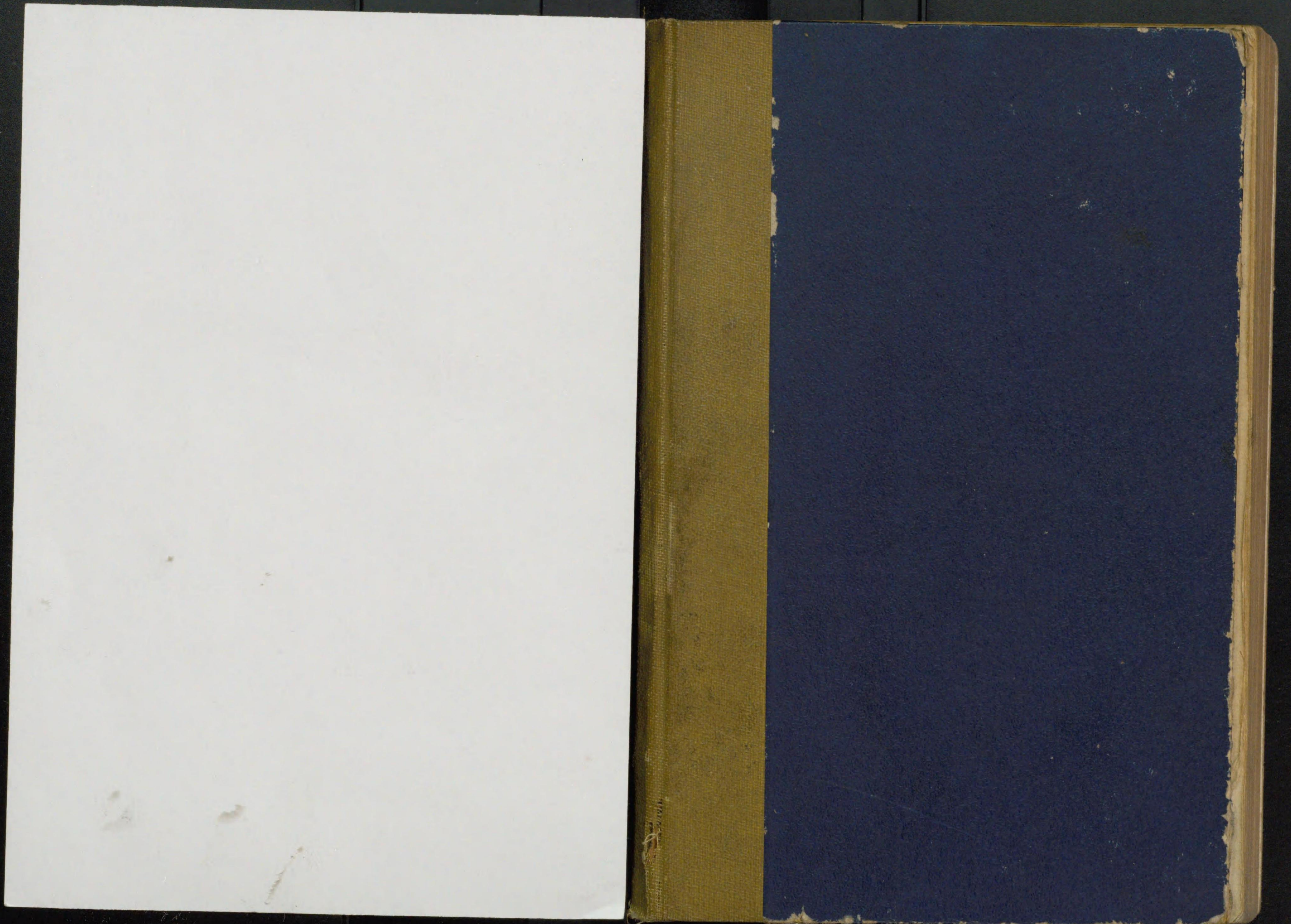
6
2

録目書著士博南海村下

公盜	給	朝日講	さし	鯖を	新開	歌天	落穂	朝日講	下村宏	思ひ出	五番	四番	皮と	思ひ出	財政	新聞	歐米	集芭	
民忠	思出	座常	潮ひ	讀む	常	穂集	人問	博士大	宏博士大	草(二)	番番	番番	と	草(一)	讀	に入り	蕉の	蕉の	
讀本	三碧	題	湖	話	識	(六番)	問	講演	講演集	卷)	茶	茶	肉	卷)	本	て	葉陰	葉陰	
昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	大正	大正	大正	大正	大正
六年	五年	五年	四年	四年	四年	四年	四年	三年	三年	三年	三年	二年	二年	十五年	十五年	十四年	十一年	十一年	十年
(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)	(定同)
文下	評	新	一	評	文	文	新	談	評	文	二	二	一	評	出	芳	一	四	
堂	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	館	館	館	館	社	社	社	社	社

日南郵貯富貯財
 本紀便蓄と蓄絶
 民紀法とと蓄
 族人規國貯機政版
 の材要民貯關
 將論義性蓄論學
 來論義性蓄論學

609
266

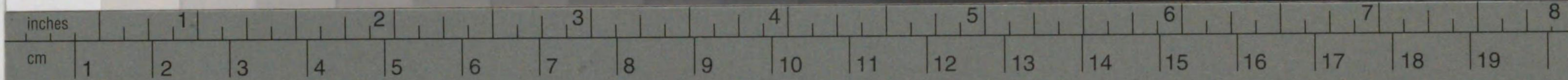


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

